

平成23年度
博士課程教育リーディングプログラム プログラムの概要

[採択時公表]

機関名	高知県立大学	機関番号	26401
1. 全体責任者 (学長)	(ふりがな) みなみ ひろこ 氏名・職名 南 裕子・(高知県立大学学長)		
2. プログラム責任者	(ふりがな) のじま さゆみ 氏名・職名 野嶋 佐由美・(高知県立大学大学院健康生活科学研究科・看護学専攻・副学長)		
3. プログラム コーディネーター	(ふりがな) やまだ さとる 氏名・職名 山田 覚・(高知県立大学大学院健康生活科学研究科・看護学専攻・教授)		
4. 申請類型	D <複合領域型(安全安心)>		
5.	プログラム名称	災害看護グローバルリーダー養成プログラム	
	英語名称	Disaster Nursing Global Leader Degree Program	
	副題	人による社会保障の実現を目指す	
6. 授与する博士学位分野・名称	看護学 DNGL:Disaster Nursing Global Leader		
7. 主要分科	(① 看護学) (② 地球惑星科学) (③ 生活科学) ※ 複合領域型は太枠に主要な分科を記入		
8. 主要細目	(①) (②) (③) ※ オフライン型は太枠に主要な細目を記入		
9. 専攻等名 (主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)	看護リーディング大学院・災害看護学専攻(平成25年4月1日開設) 高知県立大学大学院健康生活科学研究科・看護学専攻、兵庫県立大学大学院看護学研究科・看護学専攻、東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科・総合保健看護学専攻、千葉大学大学院看護学研究科・看護学専攻・看護システム管理学専攻、日本赤十字看護大学大学院看護学研究科・看護学専攻		
10. 共同教育課程を構想している場合の共同実施機関名	兵庫県立大学大学院看護学研究科、東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科、千葉大学大学院看護学研究科、日本赤十字看護大学大学院看護学研究科		
11. 連合大学院として参画または構想する場合の共同実施機関名			
12. 連携先機関名(他の大学等と連携した取組の場合の機関名、研究科専攻等名)			

(機関名:高知県立大学 申請類型:複合領域型(安全安心) プログラム名称:災害看護グローバルリーダー養成プログラム)

15. プログラム担当者					
計 24名					
※他の大学等と連携した取組(共同申請を含む)の場合:申請(基幹)大学に所属するプログラム担当者の割合 [25.0 %]					
氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成24年度における役割)
(プログラム責任者) 野嶋 佐由美	ノジマ サユミ	60	高知県立大学大学院健康生活科学研究科・看護学専攻・副学長	看護学博士	プログラム責任者
(プログラムコーディネーター) 山田 覚	ヤマダ サトル	53	高知県立大学大学院健康生活科学研究科・看護学専攻・教授	工学博士	プログラムコーディネーター
山本 あい子	ヤマモト アイコ	58	兵庫県立大学大学院看護学研究科・看護学専攻・教授	看護学博士	ラボ センター長
片田 範子	カタタ ナリコ	60	兵庫県立大学大学院看護学研究科・看護学専攻・研究科長・学部長	看護学博士	連携大学院プログラム責任者
内布 敦子	ウチヌ アツコ	56	兵庫県立大学大学院看護学研究科・看護学専攻・教授	人間科学博士	連携大学院プログラム担当者
坂下 玲子	サカタ レイコ	49	兵庫県立大学大学院看護学研究科・看護学専攻・教授	保健学博士	連携大学院プログラム担当者
工藤 美子	クドウ ミコ	48	兵庫県立大学大学院看護学研究科・看護学専攻・教授	看護学博士	連携大学院プログラム担当者
井上 智子	イノウエ トモコ	56	東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科・総合保健看護学専攻・教授	保健学博士	連携大学院プログラム責任者
佐々木 明子	ササキ アキコ	55	東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科・総合保健看護学専攻・教授	医学博士	連携大学院プログラム担当者
山本 則子	ヤマモト ナリコ	47	東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科・総合保健看護学専攻・教授	PhD	連携大学院プログラム担当者
丸 光恵	マル ミツエ	46	東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科・総合保健看護学専攻・教授	看護学博士	連携大学院プログラム担当者
佐々木 吉子	ササキ ヨシコ	43	東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科・総合保健看護学専攻・准教授	看護学博士	連携大学院プログラム担当者
正木 治恵	マサキ ハルエ	51	千葉大学大学院看護学研究科・看護学専攻・研究科長・学部長	保健学博士	連携大学院プログラム責任者
宮崎 美砂子	ミヤザキ ミサコ	51	千葉大学大学院看護学研究科・看護学専攻・教授	看護学博士	連携大学院プログラム担当者
和住 淑子	ワズミ シュコ	45	千葉大学大学院看護学研究科・看護システム管理学専攻・教授	看護学博士	連携大学院プログラム担当者
高田 早苗	タカタ サナエ	62	日本赤十字看護大学大学院看護学研究科・看護学専攻・学長	看護学博士	連携大学院プログラム責任者
筒井 真優美	ツツイ マユミ	61	日本赤十字看護大学大学院看護学研究科・看護学専攻・研究科長	PhD	連携大学院プログラム担当者
小原 真理子	オハラ マリコ	62	日本赤十字看護大学大学院看護学研究科・看護学専攻・教授	学術博士	連携大学院プログラム担当者
東浦 洋	ヒガシウラ ヒロシ	66	日本赤十字看護大学大学院看護学研究科・看護学専攻・教授	政治学修士	連携大学院プログラム担当者
守田 美奈子	モリタ ミナコ	56	日本赤十字看護大学大学院看護学研究科・看護学専攻・教授	保健学博士	連携大学院プログラム担当者
中野 綾美	ナカノ アヤミ	52	高知県立大学大学院健康生活科学研究科・看護学専攻・学部長	看護学博士	連携大学院プログラム責任者
藤田 佐和	フジタ サカ	51	高知県立大学大学院健康生活科学研究科・看護学専攻・教授	看護学博士	連携大学院プログラム担当者
竹崎 久美子	タケザキ キムコ	50	高知県立大学大学院看護学研究科・看護学専攻・教授	看護学博士	連携大学院プログラム担当者
大村 誠	オムラ マコト	52	高知県立大学大学院健康生活科学研究科・生活科学専攻・教授	理学博士	連携大学院プログラム担当者

リーダーを養成するプログラムの概要、特色、優位性

(広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー養成の観点から、本プログラムの概要、特色、優位性を記入してください。)

本プログラムの概要

「看護リーディング大学院」は、参画する5大学院がそれぞれ蓄積してきた資源を共有し、我が国で求められている災害看護に関する多くの課題に的確に対応し解決できる、学際的国際的指導力を発揮する世界的リーダーを養成し、特に災害に関して産官学と協働して、人々の健康社会構築と安全・安心・自立に寄与することを目的としている。

我が国の看護系大学院は、平成23年4月に136校となり、医科大学、薬科大学を遙かに凌ぐ数となり、看護職は産（医療施設、在宅、企業・学校等）、官（厚生労働・文部科学行政等）、学（教育・研究者育成等）と多岐にわたって活動している。災害看護教育は1995年阪神淡路大震災を契機に、学部や大学院で開始された。また卒業後医療施設に勤務する看護職は災害時に医療救護班等で活動してきた。しかし、この3月11日に発生した東日本大震災は、被害規模や広域性、原発事故という複雑性から、従来の枠組みや方式では十分な支援を提供しえない限界を明らかにした。

地球環境の変化に伴い激化し増加する自然災害・テロ攻撃を含む人為災害、そして新たな感染症の流行等の予期せぬ災害や不測の事態に備えて、人々の生命と健康危機へ対応する高度看護実践職の育成と新たな支援枠組みを提唱し、活動を統括する能力を備える災害看護グローバルリーダーの育成が急務と考える。

そこで看護学大学院教育の牽引的立場にある千葉大学および東京医科歯科大学、我が国の災害看護学の構築と発展に寄与した兵庫県立大学と高知県立大学、災害時の対応について実践を蓄積してきた日本赤十字看護大学の5大学院が協同して、「災害看護グローバルリーダー(Disaster Nursing Global Leader: DNGL)養成プログラム」を策定する。

プログラムの全体責任者は、災害看護拠点の形成(21世紀COE)を始めとして、我が国の災害看護学の基盤を構築した実績を持つ。さらに連携校の大学院教育改革プログラムの実績なども活かして、既成の制度やシステムを変革することのできるリーダー養成を目指す。運営は、5大学院の共同利用施設として「災害看護グローバルリーダー(DNGL)養成共同センター」を設置し、その下に「災害看護シミュレーションラボ」等を置く。これらのもとで、①各大学の候補院生に対する選抜試験、②開発された履修プログラム適用(留学制度、ラボの活用)、③インターンシップの実施(例:WHO職員、政治家、行政職員、企業社員として)、④5大学院共同体制による「Qualifying examination」の実施、⑤博士論文の一貫としてモデル事業やインターンシップの成果判定、⑥5大学院共同体制による研究指導体制、⑦5大学共同体制による「学位論文審査委員会」による学位授与の決定、またプログラム修了後も⑧産官学への共同モデル事業案の提案・実践と評価などを実施する。

プログラムの特色

本プログラムの特徴は、5大学院の蓄積してきた資源を共有し、連携大学院として「災害看護グローバルリーダー(DNGL)養成プログラム」を策定し、共同責任体制で一貫した教育を行いつつ、各大学院はそれぞれの特色をさらに強化していくこと、災害看護学とともにサブスペシャリティとして臨床領域、管理領域、産業領域、行政領域で災害看護学の浸透を推進すること、国内外とのインターンシップ実施やモデル事業提案を義務づけることである。

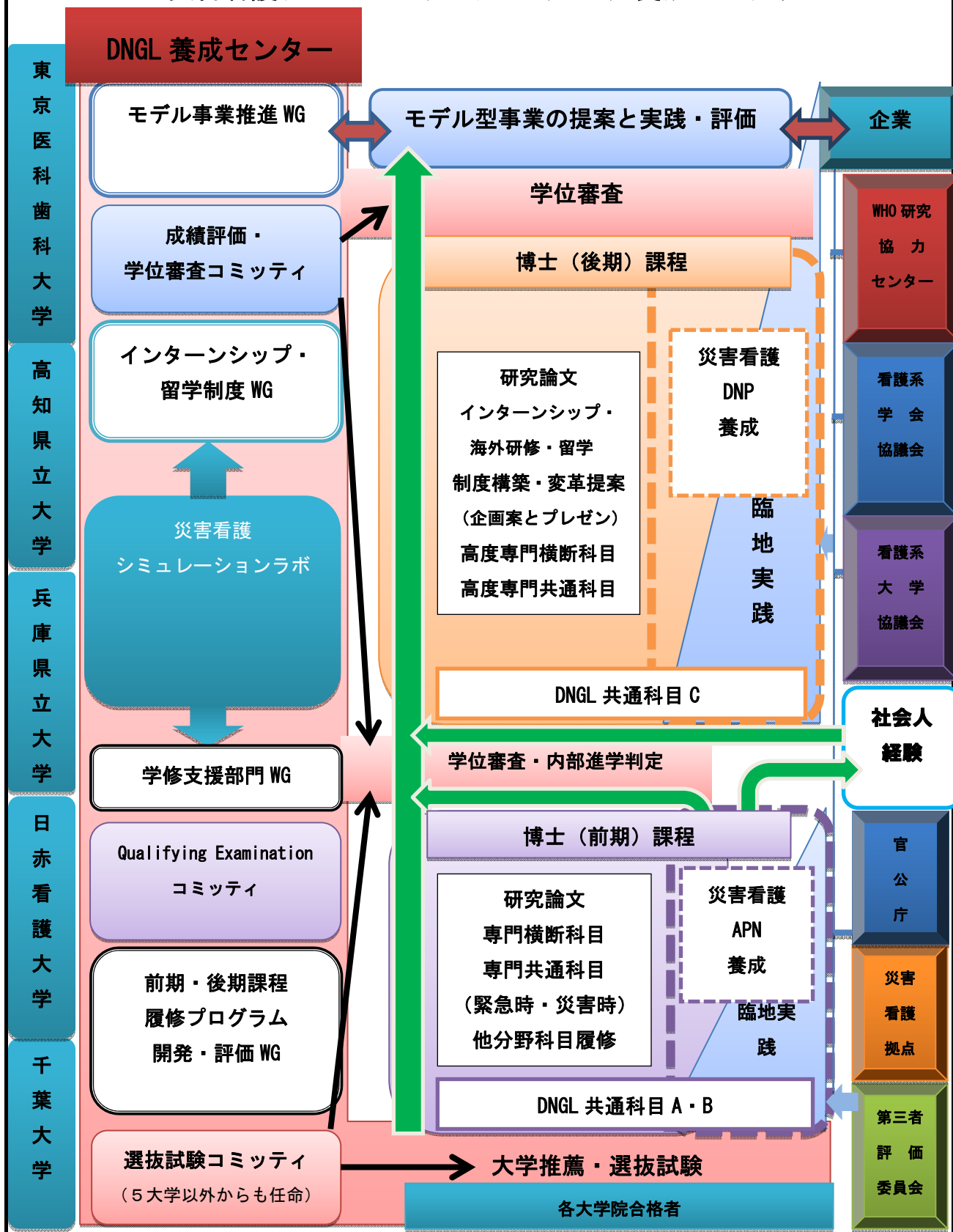
プログラムの優位性

災害対応方略の開発は、国内外において緊急課題となっている。生産人口の70人に一人、女性労働者の20人に一人は看護職である背景を踏まえて「人間による世界最大の社会保障集団」としての自覚のもと、産官学に渡るグローバルリーダーを養成する。かつ連携大学院という新たな組織構造により連鎖的な変革へとつなげうる、現在の我が国に求められている優先性の高い事業である。

学位プログラムの概念図

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成する観点から、コースワークや研究室ローテーションなどから研究指導、学位授与に至るプロセスや、産学官等の連携による実践性、国際性ある研究訓練やキャリアパス支援、国内外の優秀な学生を獲得し切磋琢磨させる仕組み、質保証システムなどについて、学位プログラムの全体像と特徴が分かるようにイメージ図を書いてください。なお、共同実施機関及び連携先機関があるものについては、それらも含めて記入してください。)

災害看護グローバルリーダー (DNGL) 養成プログラム



機 関 名	高知県立大学
プログラム名称	災害看護グローバルリーダー養成プログラム
<p>〔採択理由〕</p> <p>災害への対応や災害復興が、持続可能な社会づくりにおける重要課題のひとつであることは今や世界の共通認識であり、こうした中で、災害看護という考えを導入・発展させ、災害看護グローバルリーダーの養成を目指す本プログラムの着眼点は、時宜を得たものであるとともに、喫緊の社会的課題でもあると言える。特に、こうしたリーダーの養成は、日本を含む先進諸国だけでなく、それ以上に災害脆弱性の高い発展途上国にとって意義が高く、各国からの留学生を招き、それぞれの国に戻って活躍する災害看護のリーダーを輩出する意義は高い。</p> <p>本プログラムは、これまで看護教育を牽引してきた歴史の実績を持つ5つの大学が参画して人材育成を試みるものであり、その連携効果が期待できるとともに、災害看護のグローバルネットワークのハブとして、国際社会において日本がイニシアティブをとれる重要な拠点となり得る。</p> <p>また、災害看護リーダーの養成に貢献できるプログラム担当者の教育研究実績が質・量ともに高い水準にあるだけでなく、教育目標や教育過程も明確である。加えて、5大学で共同して、「災害看護グローバルリーダー養成共同センター」といった物的資源を据え、災害看護シミュレーションラボを設置するなど、従来の枠組みを超えた独自の養成プログラムを備えている点も評価できる。</p> <p>改善を要する点としては、海外の大学・機関との継続的、長期的な相互協力体制の整備について、より力点を置くべきである。災害看護は国際的研究にうってつけのテーマであるだけに、この点は積極的に進める必要があると考えられる。5大学間での共同教育課程を構想するとあるが、その具体的な連携のあり方についても、より明確にすることが求められる。</p> <p>本プログラムの真骨頂は、国際社会が喫緊の課題としている「防災看護」の先駆的人材養成を打ち出したことにあり、これに対応するためのプログラムも従来の枠組みを超えて綿密に構想されており、改善点等に留意すれば、優れたプログラムになるものと判断される。</p>	